

2) 地歴・公民科

ア AL型研究授業を実施して

地理歴史・公民の授業の特性上、多くの知識を身に付けることが欠かせない。各授業においては定期的に小テスト等を実施して、生徒に確実に知識を身に付けさせる取り組みを実施している。しかしそれ故に、知識の習得に終始してしまい、獲得した知識を活用し論理的に社会的事象を考察することが出来ない生徒が多い。そこで、授業や予習で身に付けた知識を活用して、「答えのない問」を生徒が思考できるように、以下の授業デザインやルーブリックを設計した。

アイルランド史は教科書では記述内容が少なく点を繋ぐ学習が必要で、生徒の理解が不十分となり誤解が生じやすい分野である。しかも、テロやナショナリズムといった現代的な課題となっている問題とも関係が深く、さらに文化・芸術面でも様々なアプローチが可能な領域でもある。そこで、「ナショナリズムは善か悪か。我々はナショナリズムをどのように理解したら良いか」を本質的な問いとして授業を設計した。設計の過程は以下に示したとおりである。

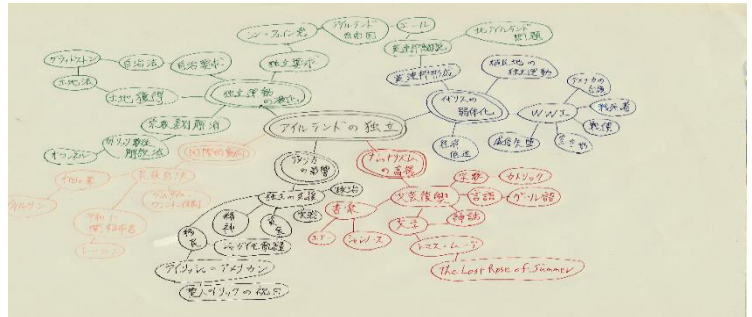
概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容：アイルランド史（単元：ヴェルサイユ体制下の欧米諸国）とする。 授業方法：入試問題（論述）の解法、予習（穴埋プリント）あり、マインドマップ、ルーブリック活用
修正①	<ul style="list-style-type: none"> 時代を19,20世紀に限定し、アイルランド独立と朝鮮独立運動を比較する。 本質的な問いを「アイルランドと朝鮮には独立運動でどのような共通点があるか」とする。
修正②	<ul style="list-style-type: none"> 範囲が広すぎるので、アイルランド独立に限定する。 本質的な問いを「北アイルランド紛争は歴史的にいかに生まれ現在に続いたか」とする。
修正③	<ul style="list-style-type: none"> 本質的な問いを立て直すためにマインドマップを使って授業内容を再構成する。 本質的な問いを「アイルランド系音楽はなぜ世界に広まり人々の支持を得ているのか」とする。
授業デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 授業デザイン（第1版）で問いの構造化を行う。 本質的な問いを「ナショナリズムは善か悪か」とする。
修正①	<ul style="list-style-type: none"> 「ナショナリズム」をキーワードに授業デザイン（修正版）を作成する。 並行して予習プリント及びルーブリックを作成する。
修正②	<ul style="list-style-type: none"> 問いの構造の「思考拡散」「思考焦点化」「思考深化」の発問を修正する。 予習にDVDの視聴を取り入れ、そのためのワークシートを作成する。予習プリントを修正する。
ルーブリック	<ul style="list-style-type: none"> 「技能」「思考力・判断力・表現力」の2観点から「知識」「スキル」「資質」の3観点とする。 振り返りシートを作成する。予習プリント及びDVD視聴用ワークシートを修正する。
修正①	<ul style="list-style-type: none"> 評価の証拠を考慮してルーブリックを修正する。 振り返りシートに論述問題を入れる。生徒が作成するマインドマップの模範例を作成する。

当日の授業ではマインド・マップを活用したグループ活動を実施した。グループリーダーを中心に積極的な話し合いがなされた。中には、マインド・マップを前に、自分たちの言葉や発想で議論を深めたグループもあった。例えば、「アイルランドとイギリスの関係が良好であった時期になぜ独立運動が激化したのか」という問いに対して、アイルランドをのび太、イギリスをジャイアンに喩え、「ジャイアンが第一次世界大戦で弱くなったのでのび太がジャイアンに反抗できるようになった」と交流しているグループもあった。また、事前に予習や視聴覚教材を用いたことで、生徒の興味関心を引きつけたり、知識の繋がり理解を図ったりすることはある程度達成できた。

しかし、授業デザインにおいて内容を多く盛り込み過ぎたこともあり、本来生徒に発見させる事柄を教員が纏めてしまったり、最後に振り返りシートまで書かせる時間を確保できなかったりした。このため、授業デザインで当初計画した「ナショナリズムについての考察」にまでは行き着けず、発展的な学習や学習の転移はおろか、結局知識中心の浅い内容に終始してしまった。



【年表活用の様子】

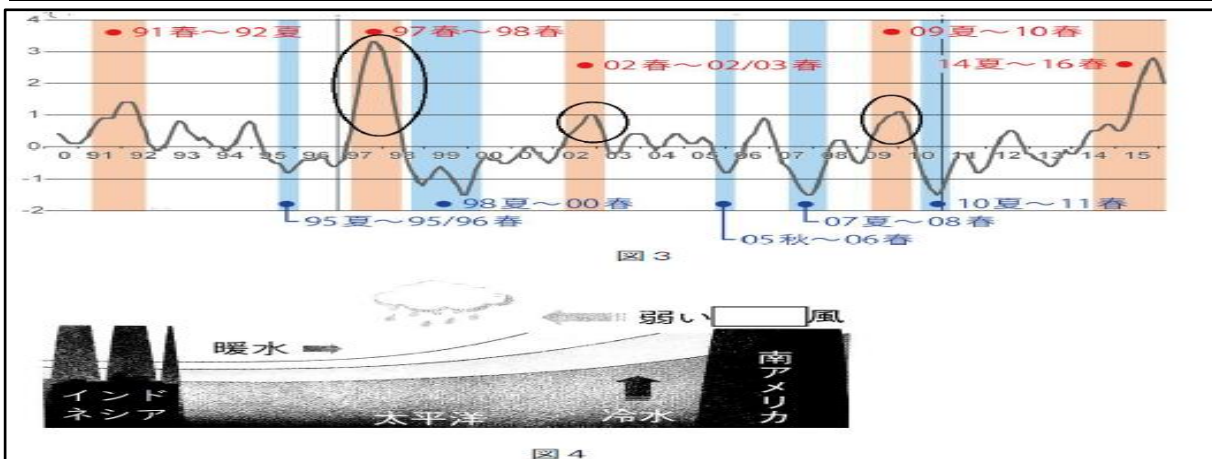


【マインド・マップの例】

イ 思考力・判断力・表現力を問う問題（2年生地理B 考查問題）

問. 次の図3のグラフはペルー沖の海水温の変化を示したものである。図3のグラフ上に○で囲った時期にはいずれもペルーの漁獲量が落ち込んでいることがわかる。図4は、○で囲われた時期に生じた現象を図示したものである。

- (1)この現象の名称とその仕組みに入る風の名称を踏まえて説明しなさい。(4点)
- (2)この現象とペルーの漁獲量が低下することの関係を「プランクトン」「栄養分」という語を用いて説明しなさい。(4点)



この問題を解答するために必要な知識は大きく分けて2点ある。1つは、エルニーニョ現象の仕組みを理解すること、1つは漁場の成り立つ条件を理解することである。「エルニーニョ現象」によって湧昇流が弱まることと湧昇流によってプランクトンが栄養を摂取することができることを関連づけて考えなければならない。これらは異なる単元で取り扱う内容であり、単元をまたいだ理解ができているかが問われている。このような問題を通して、既存の知識を繋げて問題の解明・解決ができる力を育てると考える。

出題してみて、白紙解答の生徒も見受けられたが、知識を確実に習得している生徒は、グラフや図から思考し解答を導き出すことができた。(文責：立田)

授業デザイン

教科	地理歴史	科目	世界史B	授業者	立田 和久
実施日時	2018年 10月		対象クラス	3年	DF組 (40 人)

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面（説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識）

単元名	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国
④ 単元目標	ヴェルサイユ・ワシントン体制の理念となった「民族自決」「国際協調」の矛盾と限界を理解することで、第二次世界大戦がなぜ止められなかったかを推測できる。また現代においてこの理念はどう捉えられているか解釈できる。
④ 本質的問い	ナショナリズムは善か悪か。我々は自他のナショナリズムをどのように理解したらよいか。
① 理解 ② 重大観念 ③ 誤解	① ナショナリズムは自然発生的に歴史の舞台に登場するのではなく、近代に人工的・組織的に作り出された産物である。また、ナショナリズムは現代においても大いに私たちの生活にも影響を及ぼしている。 ② ナショナリズムには様々な定義があり善悪を判断することは難しく重要論点となっている。
④ 知識 ⑤ 技術	④ ナショナリズム、ヴェルサイユ・ワシントン体制、民族自決、土地法、自治法、ジャガイモ飢饉、シン＝フェイン党、アイルランド自由国、エール共和国、グラッドストーン、カトリック教徒解放法 ⑤ 独立の諸要因をナショナリズムに着目してマインドマップに正しく位置づけられる。

【第二段階 評価のための証拠】

評価のための証拠	パフォーマンス課題、テスト、小論文、 <u>振り返りシート</u> 、作品、 <u>生徒の応答</u> 、 <u>生徒の質問</u> 、 <u>観察</u> その他（マインド・マップ）
ルーブリック	<u>有</u> （別紙） ・ 無

【第三段階 学習計画】

1 各授業のテーマ（主となる学習活動の内容や問い等）

第1時の内容	ヴェルサイユ・ワシントン体制はどのような目的で形成され、理念はどの程度実現されたか。
第2時の内容	第一次世界大戦後、西欧諸国は政治的・経済的になぜ停滞することになったのか。
第3時の内容	アメリカ合衆国の「永遠の繁栄」とはどのようなものであったか。
第4時の内容	「民族自決」の理念は、アイルランドではどのように実現したか。その要因は何か。（本時）

2 予習（有・無）

内容分量	A 「ケルトの風が運ぶ癒しの歌声」(BSプレミアム)視聴 観賞用ワークシート B アイルランド独立についてのワークシート ※B4プリント1枚で、30分程度 ①教科書の記述 ②イギリスとアイルランドの文化比較 ③アイルランド独立に関わる年表 ④ナショナリズムの定義 <u>コラム1</u> …北アイルランド紛争 <u>コラム2</u> …合衆国の中のアイルランド
------	---

3 問いの構造 ※ GWグループ活動、MMマインド・マップ、WSワークシート

①つかみの発問	“You Raise Me Up (Celtic Woman)” の“You”とは何か。ユーチューブ上で、「4000万回」以上も再生され世界中の人々に支持されているのはなぜか。→⑤⑥
②課題提示の発問	「民族自決」の理念は、アイルランドではどのように実現したか。その要因は何か。
③思考拡散の発問	予習年表でアイルランド独立への道程を時代区分するとすれば、どこで区切ることができるか。（各時期の特徴をキーワードで表現し独立の諸要因をまとめる）→個人→GW
④思考焦点化発問	19世紀末の英－愛関係が良好であったのにも関わらず、アイルランドがイギリスと決別しようとしたのはなぜか。（なぜ「イースター蜂起」は起きたのか。また、それに失敗したにも関わらず独立運動が維持されたのはなぜか。）→GW/MM
⑤思考深化の発問	アイルランドにおいてナショナリズムはどのように形成され、維持・発展したのか。それを促進した要因にはどのようなものがあつたのか。→GW/MM
⑥評価の発問及び生徒の質問	本授業で明らかにならなかったことについて、問いを立ててみよう。（質問例：私たちがナショナリズムを意識するのはどのような時か。ナショナリズムは善か悪か。）→個人/WS

世界史B ルーブリック

	評価の観点(評価の証拠)	S	A	B	C	D
1	知識 (論述問題)	アイルランド独立への過程を、イギリスの政策の変化と独立運動の関りに着目しながら、全ての指定語句を正しく位置づけて説明できる。	アイルランド独立への過程を、イギリスの政策の変化と独立運動の関りに着目しながら、6つ以上の指定語句を正しく位置づけて説明できる。	アイルランド独立への過程を、イギリスの政策の変化と独立運動の関りに着目しながら、4つ以上の指定語句を正しく位置づけて説明できる。	アイルランド独立への過程を、複数の指定語句を正しく位置づけて説明できる。	アイルランド独立への過程を、指定語句を正しく位置づけて説明できない。
2	スキル (年表) (マインドマップ)	アイルランド独立の諸要因をナショナリズムに着目して位置づけることができると同時に、アイルランドのナショナリズムの特徴を明らかにできる。	マインドマップや年表で挙げた、アイルランド独立の諸要因を相関関係や因果関係を正しく考察しリンクさせることができる。	マインドマップや年表の加工を通じてアイルランド独立の諸要因を国際情勢の変化にも着目しながら複数挙げるができる。	マインドマップや年表の加工を通じてアイルランド独立の要因を、複数挙げることができる。	アイルランドの独立の過程や要因を年表やマインドマップでまとめることができない。
3	資質 (質問)	学習内容から、ナショナリズムの多様性を理解し、現代に生きる私たちがナショナリズムとどう向き合うべきか考察できる。	学習内容を、現代や個人に置き換えて考えようとしている。	授業内容の範囲内でHowやWhy、Ifなどを使った問いを立てられる。	授業内容の範囲内のWhatの問いに留まっている。	問いを立てることができない。
	質問例	①ナショナリズムは善か悪か。 ②我々は自他のナショナリズムをどのように理解したらよいのか。	IRAによるテロ活動は終息したのに、なぜ世界の他の地域のテロはなくなるのだろうか。	もし、アイルランドで文芸復興運動が起ころなければ、アイルランドはどうなっていただろうか。	アイルランド自由国とエール共和国はどう違うのか。	問いを立てることができない。